

各 位

上場会社名 株式会社 エヌ・ピー・シー  
代表者 代表取締役社長 隣 良郎  
(コード番号 6255)  
問合せ先責任者 取締役企画情報部長 佐藤 寿  
(TEL 03-5615-5069)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成23年3月31日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

### 業績予想の修正について

平成23年8月期通期連結業績予想数値の修正(平成22年9月1日～平成23年8月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	20,136	484	331	128	6.94
今回修正予想(B)	17,067	1,264	925	591	31.83
増減額(B-A)	3,069	780	594	463	
増減率(%)	15.2				
(ご参考)前期実績 (平成22年8月期)	14,997	927	1,137	823	45.13

平成23年8月期通期個別業績予想数値の修正(平成22年9月1日～平成23年8月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	18,334	577	419	183	9.87
今回修正予想(B)	16,142	802	453	205	11.05
増減額(B-A)	2,192	225	34	22	
増減率(%)	12.0				
(ご参考)前期実績 (平成22年8月期)	14,946	881	1,085	782	42.88

### 修正の理由

平成23年8月期通期の個別業績予想修正の理由は、以下のとおりであります。

当社グループの主力事業である太陽電池製造装置事業におきましては、2010年にドイツ等で太陽電池の設置量が急増した反動により、2011年の太陽電池市場は前年比で一時的に横ばいもしくは減少となると考えられております。特に世界の半分以上の太陽電池を設置しているドイツでは2011年1月から5月までの累計設置量が前年比4割減となっております。その結果、当社の顧客である太陽電池メーカーの設備投資が弱含んでおり、一部の顧客には設備投資計画の延期や設備の受け入れ時期を遅らせるなどの動きがあります。そのような状況下、個別売上高につきましては、平成23年8月期に売上計上を予定していた案件の一部が、顧客都合による納品の先送り要請等により平成24年8月期に売上計上することとなったため、前回発表予想より2,192百万円減少し、16,142百万円となる見込みであります。営業損失につきましては、原価削減を目的とした新生産方式への移行が順調に進んでいるものの、上述のとおり売上高が前回発表予想を下回ることにより、前回発表予想より225百万円拡大し、802百万円となる見込みであります。経常損失につきましては、上述の営業損失の拡大があったものの、主として保険の解約による雑収入337百万円を営業外収益に計上することにより、前回発表予想より34百万円の拡大に留まり、453百万円となる見込みであります。当期純損失につきましても、前回発表予想より22百万円の拡大に留まり、205百万円となる見込みであります。

平成23年8月期通期の連結業績予想修正の理由としては、上記太陽電池市場低迷の外部要因の他、当社連結子会社であるMeier Solar Solutions GmbHの内部要因が挙げられます。

Meier社につきましては、6月から7月にかけて当社経理責任者、内部監査人、外部監査人による実態調査をしたところ、欧州市場での需要の大幅な落ち込みという外部環境の悪化のみならず、製造部門の高コスト問題、製造期間長期化の問題、キャッシュフローの問題等の内部の問題を認識しました。この結果、連結売上高につきましては、上記個別売上高の減少も含め3,069百万円減少し、17,067百万円となる見込みであります。営業損失につきましては、780百万円拡大し、1,264百万円となる見込みであります。なお、経常損失、当期純損失の修正は営業損失の修正に伴うものであります。

なお、Meier社の改革としては、損益分岐点の引き下げ、製造納期の短縮、キャッシュフローの改善を達成するために、8月1日付で当社から最高財務責任者(CFO)の派遣、加工品等のグループ内供給、製造人員削減等の施策の実施を決定しております。

(注)上記予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。